＜ネヘミヤ記から＞

【忘年会】今年は、良いことばかりじゃなかった、すべてなかったことにし、来年を新しく始めよう、というのが日本人の持つ、忘年会の意味合いのようです。新年にあたり、教会はどんなふうに考え、祈るでしょうか。去年のことは、事実、私たちがどんなに思おうと、まぎれもない事実なのです。その結果を引きずっているでしょう。しかし聖書は“翻って心を新たに”する時“キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた（Ⅱコリント５：１７）”と語ります。これは受洗の時を思い出させてくれる言葉でしょう。しかしまた聖餐の時に捧げる懺悔の祈りをも、身近な祈りにしてくださるものです。“犯した罪を忘れ”とは祈らないのです。またこれは、悔改めによる“前進と積み重ね”の生涯を示しているのです。

【再建】元々あった有形無形のものをもう一度、元通りにするというのが再建の意味でしょう。それがよいものであれば、一時、その期間はどれだけかは別にして、なかったということを示す言葉です。

【破壊からの再建】“こんなふうになるのは分かっていた、私の言うとおりだ”と言って、教会の礼拝に集えなくなってしまっている兄姉のことを思い出します。絶対に“誰のことだ”と気を配らないでほしいのです。反対に、これらの人々は、かつての素晴らしさと豊かさを思い出し、懐かしく思っているのです。ですから、蓄積を知る人こそ再建することができるのです。イスラエルの人々も同じ経験をしてきました。

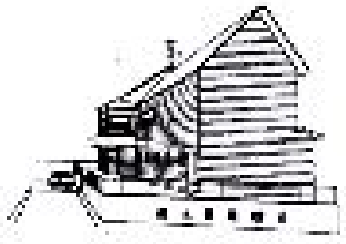
【城壁再建】捕囚からの帰還を成し遂げた人々を待ち構えていたのは、荒れ果てた土地・エルサレムと、跡形だけに破壊された城壁、そして外敵の脅威と、捕囚の間に、徐々に失われていった、民族のアイデンティティでした。イスラエルの民はまず城壁の再建に立ちあがることになりますが、容易ではなかったのです。とりかかった神殿再建の作業は遅々として進まず、徐々に無力感へと変わっていくことになります。先に“こうなるのは分かっていた”と、現在の教会にあざけりの声を投げかける人がある、と例を示したのはこの様子と実に似ているからです。私たちはこの歴史を知っていますから、教会がどんな状況にあっても、再建を願うことができるのです。

【教会の再建】小さな教会にも必ず再建の道が主によって、主に立ち帰る人々がいる限り、その人々に与えられることを信じましょう。先週の祈祷会では“今しばらくの試練をしのびなさい”と語りかけるヘブライ書が開かれました。6：10に“神は不義な方ではないので、あなたがたの働きや、あなたがたが聖なる者たちに以前も今も仕えることによって、神の名のために示したあの愛をお忘れになるようなことはありません”とある箇所です。神なんて不義だと思う人は“教会はもうおしまいだ、かつての栄光はない”と、主を信じる人々に“障壁”を与えているのです。

【ネヘミヤ書の語る歴史】8：3に“夜明けから正午までそれを読み上げた。民は皆、その律法の書に耳を傾けた”とあります。“耳を傾ける”というのは、ただ聞いた、という以上に“深く心から納得した”という意味です。ここが折り返し点になります。破壊を嘆きあきらめる姿から、再建を望み、再度着手する姿に変えられることになるのです。片手に剣、片手に工具という姿で、短く見ても十数年経過した後、城壁は再建されますが、ここで人々の清めが記され、律法が語られ全ての人々がこれに聞き入り、9章にある告白の祈りへと導かれるのです。“ところが、わたしたちの先祖は傲慢にふるまい、かたくなになり、戒めに従わなかった。聞き従うことを拒み、彼らに示された驚くべき御業を忘れ、かたくなになり、エジプトの苦役に戻ろうと考えた。しかし、あなたは罪を赦す神。恵みに満ち、憐れみ深く、忍耐強く、慈しみに溢れ、先祖を見捨てることはなさらなかった”とあります。今年も教会を守ってくださった神とともに進みましょう。

週　報

２０１１年　1月　2日



伝えよう　救い主を
迎えよう　主の民を

日本フリーメソジスト
清水草薙キリスト教会

牧師　　村上　定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前　9：00
礼拝式	毎日曜日	午前 10：30
	（聖餐式　第一日曜日）	
夕礼拝式	毎日曜日	午後　7：00
エステルの会	毎水曜日	午前 10：30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後　7：00

ホームページ　http://kusanagi.church.jp/

〒424-0885
静岡市清水区草薙杉道３丁目２－２６
☎054-345-4070　E-Mail grace@big.jp
振替口座　00890-6-214042